

平成29年2月放送総局長定例記者会見 要旨

○平成29年度 国内放送の改定について（木田放送総局長）

<総合テレビ>は、生放送の時間を増やし、関心の高いビビッドな情報や地域の魅力を発信、緊急対応力を強化する。平日の午後の時間帯をライブ感あふれるゾーンに刷新し、平日午後1時から3時間にわたって生放送でお送りする情報番組「ごごナマ」を新設。さらに、より幅広い世代の視聴者から支持されるようゴールデン・プライム帯の番組を充実させ、“東京2020”への課題を検証し、期待に応える多様な番組を編成する。「NHKスペシャル」では、シリーズ“TOKYO REBORN”がスタートし、オリンピック開催で変わる東京の姿を4Kで記録していく。<Eテレ>の新しいキャッチコピーは「みつかるEテレ」。「“学ぶ・知る” 楽しみから、“体験する・使う・つながる” 楽しみへ」をコンセプトに、さらに役に立つチャンネルへ一歩踏み出す。

<BS1>は、2020年の東京大会に向けて高まる視聴者のスポーツ熱や関心に応える番組を強化。<BSプレミアム>では、スケール感あふれる多彩な特集番組を一層充実させ、特に土曜夜間の「スーパープレミアム」として、斬新な演出によるドラマや音楽番組、スケール感あふれる自然・紀行・歴史番組やインパクトのある大型番組を月1回放送する。

<ラジオ>では、子どもが主役の番組「きこえタマゴ！」やアプリと連動して英単語を習得する番組「ボキャブライダー」などを新設する。
(詳細は報道資料を参照)

○平成29年度 NHKワールドTVの新番組について（荒木副総局長）

世界の多くの視聴者に日本をより深く知ってもらうため、日本を訪れる外国人に役立つ情報を伝える番組を新設するとともに、国内の各地域から世界に発信する番組を大幅に増やす。「#TOKYO」は、旅行情報サイトの「トリップアドバイザー」や「インスタグラム」といったSNSのデータや画像を活用しながら、東京の街を楽しむための最新情報を、インターネットと連動して発信していく。さらに、アニメやドラマのほか、国内放送で人気の番組など幅広いジャンルの番組を新設する。
(詳細は報道資料を参照)

○東日本大震災関連番組（木田総局長）

東日本大震災から6年。被災地の「今」を全国に伝え、復興を支援する番組を集中的に放送し、生中継やドキュメンタリー、ドラマなど、さまざまなジャンルの番組で多角的に伝える。3月10日「NHKスペシャル」では、故郷への一時帰還に向かう福島若者たちに密着した「15歳、故郷への旅」をお送りする。彼らが何を背負いながらこの6年を過ごしてきたのか。そして故郷に帰り、どう新しい一歩を踏み出していくのかを記録する。11日の「シリーズ東日本大震災“仮設6年”は問いかける」では、いまだにおよそ3万人が仮設住宅での暮らしを強いられるなか、次なる巨大災害への対策として何が必要なのか、被災者の厳しい実態とともにその根本的な要因を取材した。

そのほか、総合テレビでは3月11・12日に、東京をキーステーションに東北と全国をつなぎ、震災の教訓を未来に伝えていく「特集 明日へつなげよう」を放送。BSプレミアムでは、東北の人たちの桜に寄せる心模様を美しい映像でつづる、ザ・プレミアム「東北サクラ旅」をお送りする。
(詳細は報道資料を参照)

○3/29、30 <総合> 認知症キャンペーン関連番組（荒木副総局長）

4月に開催される「世界アルツハイマー大会」のテーマ「認知症：ともに新しい時代へ」を一緒に考えていく特集番組を2夜連続で放送する。3月29日は、45歳の時に認知症と診断された藤田和子さんが、葛藤と苦闘の中で日本初の認知症の人だけで構成する団体をつくるまでの10年間の軌跡をドキュメンタリードラマで描く。また30日は、「“脳若返り”効果倍増！おトナリさんとの認知症予防」をお送りする。（詳細は報道資料を参照）

○3/26 BS1スペシャル「月へ、夢を～人類初の月面探査レースに挑む～」（安齋副総局長）

月に無人探査機を送り込み、「500メートルの走行」「高解像度の動画を地球に送信する」などの課題をいかに早く達成できるかを競う、前代未聞のレースが繰り広げられている。現在は世界の5つのチームが競っており、日本から参加しているのが「チームHAKUTO」。資金集めや月面の環境に耐える技術開発など、多くの困難に見舞われながら夢に向かって格闘するメンバーたちの姿を描く。（詳細は報道資料を参照）

○3/20 <FM> 「春は別れの季節…今日は1日“失恋ソング”三昧」（安齋副総局長）

全国のリスナーから心に残る「失恋ソング」のリクエストをメールやツイッターで募集し、紹介していく。進行役は番組企画者でもある有働由美子アナウンサー。皆さんから寄せられた失恋ソングにまつわるエピソードを紹介しながら、歌詞も朗読。ゲストには、有働アナウンサーが「ぜひ恋愛について語ってみたい」と考える豪華ゲストが次々と登場する。（詳細は報道資料を参照）

Q. 山形放送局記者による事件について、どのように受け止めているか

A. （木田総局長）放送、特に報道に関わる人間がこのような悪質な事件で逮捕され、NHKの信頼を大変大きく損ねた責任は極めて重いものと受け止めている。深くおわび申し上げるとともに、警察による事件の全容解明に協力していく。NHKとしても指導監督上の問題等がなかったか調査を進めており、結果を踏まえて、適切に対処していく。